

StComm 会議報告

作成 190708

川口慎介

場所：東京大学山上会館

日時：2019年6月13日(木)～14日(金)

議長： Jérôme Dymont (仏, 議長), Kamil Szafranski (仏, コーディネーター)

委員： Nadine Le Bris (仏), Melissa O Anderson (カ), Philipp A. Brandl (独), Sung-Hyun Park (韓), John Kurian (印), Cedric Hamelin (ノ), 川口慎介 (日)

現地：沖野郷子 (日 IR-Japan 代表), 浅田美穂 (日 IR-Japan 事務局), 砂村倫成 (日本郷ローカル)

6月13日(木)

議長の Jerome Dymont が開催の挨拶があった後、ローカルホストの沖野郷子から歓迎の挨拶があった。参加委員の自己紹介を行い、会議成立が確認された。2018年会議の振り返りを行った。

各国の2019年および2020年のメンバーシップについて Principle/Regular の別について確認し、日本は引き続き Regular となることを申告した。

コーディネーターより、今年度の IR オフィスの活動報告があった後、各国の状況について報告があった。4つの Working Group の活動状況について Kamil から報告があり、2つの新設 WG が同日別場所開催となってしまった経緯について説明があった。

Nadine Le Bris から今秋開催予定の Theoretical Institute でのテーマや講演者の候補があげられ、適宜改訂を行った。開催は11月18日(月)–11月22日(金)を第一候補として調整することが確認された。

東大工学部内の松本楼にて IR オフィス主催の交流会を行った。

6月14日(金)

議長から第25回 ISA (国際海底機構) への参加報告および SCOR-IR 共同会議報告があり、HIOE2 に関わるプロジェクトがあれば交流を深めたい旨の呼びかけがあった。

2020–2022年の IR オフィス国について議論があり、ノルウェーおよび韓国が明確に興味を示したものの両国とも国内状況の整理が先決であるとのことで、保留となった。

フェロシップおよびクルーズバーサリーの選定について、principle/regular/non-member の間で差異を設けるべきとの意見があり、具体的な方式について議論がおり、仮案が共有された。

IR のフォーカスを広げ、また visibility を向上させるべきという意見が多数あがり、まずは SNS を含めた発信の強化を行うことが共有された。

2020年 StComm 会議の開催地については、オフィス国が決まるまで保留することとなった。

ここまでの議論について振り返り、会議を終了した。

根津「はん亭」において、ローカルホストである日本が主催する交流会が行われた。

「はん亭」のみ参加

富士原敏也（日 前 StComm 委員），

渡部裕美（日 次期 StComm 委員候補），

CHEN Chong（日 次期 StComm 委員候補），

今後のための Memo

会場にかかる諸経費は東大負担、二日目交流会は JAMSTEC 負担